



Sun Ray™ Server Software 4.1 リリースノート

Solaris™ オペレーティングシステム

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-6473-10
2008 年 10 月、Revision A

このマニュアルについてのコメントを次のアドレスにお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2002-2008, Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、サン・マイクロシステムズ株式会社の提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Sun Ray、Sun WebServer、Sun Enterprise、Ultra、UltraSPARC、SunFastEthernet、Sun Quad FastEthernet、Java、JDK、HotJava、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape は、米国 Netscape Communications 社の商標もしくは登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK グラフィカルユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

サポートされているプラットフォーム	1
Solaris のパッチ要件	2
Solaris Trusted Extensions のパッチ要件	2
新機能	3
Xnewt (Xorg Server)	3
マルチメディア拡張機能	3
PC/SC-lite のサポート	4
PC/SC-lite USB CCID IFD ハンドラ	4
リモートホットデスク認証	4
VPN 拡張機能	4
新しい設定オプション (.parms)	5
自己登録 GUI の拡張	5
サービスタグ	5
サービスタグのインストール	6
既知の問題と制限事項	6
インストール、構成、およびアップグレードに関する問題	6
GUI の問題	7
画面の問題	8
マルチメディアの問題	8

Solaris 10 のゾーン	9
キーボードの問題	9
キオスクの問題	10
外部ストレージの問題	11
Solaris Trusted Extensions の問題	12
各言語対応の問題	14

Sun Ray Server Software 4.1

リリースノート Solaris オペレーティングシステム

サポートされているプラットフォーム

Solaris 用 Sun Ray Server Software 4.1 は、Solaris SPARC サーバーおよび x86 サーバーの次のオペレーティングシステムで実行されるように設計されています。

- Solaris 10 5/08 以降の SPARC および X86 版
- Solaris 10 5/08 以降の SPARC および X86 版 (Trusted Extensions 搭載)

表 1 に、Sun Ray Server Software とオペレーティングシステムのバージョンの互換性を示します。

表 1 Sun Ray Server Software とオペレーティングシステムのバージョン

Sun Ray Server Software	Solaris 10	Trusted Solaris
4.0	Solaris 10 11/06 以降 SPARC および x86 版	Solaris 10 11/06 以降 SPARC および X86 版 (Solaris Trusted Extensions 搭載)
4.1	Solaris 10 5/08 以降 SPARC および x86 版	Solaris 10 5/08 以降 SPARC および X86 版 (Solaris Trusted Extensions 搭載)

Solaris のパッチ要件

Sun Ray Software をインストールする前に、SunSolve の Web サイトで入手できる以下のパッチをインストールする必要があります。

表 2 Solaris 10 に必要なパッチ

プラットフォーム	パッチ番号
SPARC	120284-07 以降
X86	120285-07 以降

Solaris Trusted Extensions のパッチ要件

Solaris Trusted Extensions 環境で Sun Ray Software をインストールする前に、SunSolve の Web サイトで入手できる以下のパッチをインストールする必要があります。

表 3 Solaris Trusted Extensions に必要なパッチ

プラットフォーム	パッチ番号
SPARC	126363-05 以降
X86	126364-05 以降

注 – Solaris Trusted Extensions に関する既知の問題については、[12 ページの「Solaris Trusted Extensions の問題」](#)を参照してください。

新機能

Solaris 用 Sun Ray Server Software 4.1 では、次の新機能が提供されています。

Xnewt (Xorg Server)

SRSS 4.1 には、Xorg 7.2 コミュニティソースをベースとする新しいスタンドアロン Xserver である Xnewt が組み込まれています。Xnewt は Sun Ray DTU 用に特に設計されており、Solaris の SRSS に対するデフォルトの Xserver になっています。Sun Ray 以外のデバイスで使用すると効率的ではありません。

Xnewt では、2 つの新しい拡張機能である XRandR と XVideo が導入されています。ただし、8 ビット表示のサポートはなくなりました。8 ビットサポート (Xsun) 用の優先 Xserver を設定するには、`utxconfig` を使用してください。詳細については、`Xnewt(1)` および `utxconfig(1)` のマニュアルページを参照してください。

マルチメディア拡張機能

このリリースは、拡張されたマルチメディアプレイバック機能を提供します。この機能により、Sun Ray アーキテクチャーが拡張され、H.264 (MPEG-4) および VC-1 (WMV9) ストリームを受け取って、復号化のためにこれらのストリームを直接 Sun Ray 2/2FS/270 DTU に転送できるようになります。したがって、復号化に Sun Ray Server CPU および Windows Server CPU は使用されません。これは、サーバーリソースとネットワーク帯域幅を保持する上で最適な解決方法です。

その他の種類のビデオストリームについては、このリリースでは Sun Ray 1 DTU と Sun Ray 2 DTU で標準 (XVideo) インタフェースの汎用的なプレイヤーの最適化を利用して、YUV ストリームを直接 DTU に送信します。これにより、復号化されたビデオを Sun Ray DTU に配信するために必要な帯域幅が削減され、H.264 および VC-1 以外のビデオフォーマットのプレイバックが向上します。たとえば、Solaris の RealPlayer では、高速化された YUV パスを利用する XVideo 拡張機能がサポートされています。

この拡張機能は、Windows XP および Windows 2003 プラットフォームで Windows Media Player 10 および 11 を使用しクリップを再生する場合にのみサポートされます。詳細は、『Sun Ray Connector for Windows OS Version 2.1 インストールおよび管理マニュアル』を参照してください。

PC/SC-lite のサポート

Sun Ray Server Software は、Sun Ray クライアントに接続されたスマートカードおよびスマートカードリーダーへのアクセスを可能にするために、業界標準の PC/SC-lite API をサポートします。

PC/SC-lite USB CCID IFD ハンドラ

このディストリビューションは、Open Source MUSCLE プロジェクトに由来する、PC/SC-lite API に対する CCID 準拠 USB スマートカードリーダー用 Interface Device Handler (IFD) の Sun Ray への実装です。PC/SC-lite と組み合わせてこの IFD ハンドラを使用すると、PC/SCに準拠するアプリケーションおよびミドルウェアは、外部の USB スマートカードリーダーを Sun Ray クライアントで使用できます。

PC/SC-lite および PC/SC-lite USB CCID IFD ハンドラは、Sun ダウンロードセンターで入手できます。インストールの手順や詳細な説明については、『PC/SC-lite Release Notes』を参照してください。

リモートホットデスク認証

リモートホットデスク認証 (Remote Hotdesk Authentication、RHA) は、新しいセキュリティポリシー機能であり、デフォルトで有効になっています。

既存のセッションに接続する前に、認証マネージャーはセッションマネージャーに、ユーザー認証用の新しいセッションの一時的な作成を要求します。ユーザーの認証に成功すると、その Sun Ray DTU はユーザーのセッションに直接接続されます。この認証は、匿名のキオスクモードには適用されません。Sun Ray Server Software は、管理 GUI を使用するか、utpolicy に -D を指定することで、必要に応じて RHA をオフにできます。

VPN 拡張機能

このリリースは、Cisco ASA ファミリ (EzVPN) および Juniper/Netscreen の IPsec ベースのゲートウェイをサポートします。

新しい設定オプション (.parms)

このリリースでは、.parms ファイルまたはダウンロード可能な設定ファイルを使用して、またはポップアップ GUI を使用してローカルに、ほとんどの項目を設定できるように設定が統合されています。

新しい設定オプションには次のものがあります。

- MTU
- 帯域幅
- Syslog イベントのログレベル
- LogHost
- compress
- lossless
- stopqon
- utloadoff
- fulldup
- kbcountry

MTU 以外の項目は、常に GUI の値が優先されます。GUI の値をクリアし、.parms の値を使用することもできます。ほとんどの DHCP バンダーオプションが、新しい値によって置き換えられます。

自己登録 GUI の拡張

PAM 認証との互換性のために自己登録 GUI が拡張されています。詳細は、pam および pam.conf のマニュアルページを参照してください。自己登録 GUI は PAM サービス名 utselfreg を使用します。このサービスの /etc/pam.conf に特定の PAM 構成は追加されないため、pam.conf のマニュアルページで説明されているように、ほかの PAM サービスにデフォルト設定されます。

サービスタグ

サービスタグは、Sun のソフトウェアとハードウェアを登録するための Sun 全体の戦略的な取り組みです。Sun Ray のサービスタグサポートを使用すると、Sun Ray ソフトウェアを登録できます。顧客のインストールからこれらのエントリを取得し、フィードバックとして Sun に送られます。

サービスタグのインストール

通常の SRSS インストールに加えて、SRSS インストーラはサービスタグアドオンパッケージ SUNWutsvt もインストールします。これにより、サービスタグを含む SRSS および SRWC 製品が登録されます。ただし、SRSS アンインストーラはサービスタグアドオンをアンインストールしません。

このパッケージをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
# pkgrm SUNWutsvt
```

サービスタグ機能の設定、有効化、または無効化については、次を参照してください。
</etc/opt/SUNWutsvt/utsvtd.conf.defaults>

SRSS は、アドオンパッケージはインストールしますが、メインのサービスタグパッケージはインストールしません。サービスタグパッケージは、デフォルトでは Solaris 10 5/08 以降によってインストールされます。

サービスタグを使用すると、ユーザーは Sun 製品を Sun コネクションに自動的に登録できます。たとえば、次のページで「Discover & Register」を選択します。
<https://sunconnection.sun.com/inventory>

Sun のサービスタグに関する詳細については、次を参照してください。
<http://wikis.sun.com/display/ServiceTag/Sun+Service+Tag+FAQ>

既知の問題と制限事項

インストール、構成、およびアップグレードに関する問題

utadm および utconfig を実行する前の再起動

SRSS 3.1 以降では、インストール後に再起動してから Sun Ray サービスが開始されます。そのため、Sun Ray Server Software をインストールしたあとで、utadm および utconfig を実行する前に Sun Ray サーバーを再起動する必要があります。

GUI の問題

SunMC (バグ ID 6507891)

Sun Ray SunMC モジュールは、管理 GUI の状態を正しく検出せず、管理 GUI が実行されているかどうかに関係なく、常に実行されていないものとしてレポートします。

遠隔アクセス (バグ ID 6508069)

遠隔アクセスを無効にすると、空白のページが表示されることがあります。

utconfig -w コマンドによって、管理 GUI への遠隔アクセスを有効または無効にすることができます。遠隔アクセスが無効である場合 (デフォルト)、<http://localhost:1660> または <http://127.0.0.1:1660> を経由して管理 GUI にアクセスしてください。

その場合に <http://<servername>:1660> を経由しても管理 GUI にはアクセスできず、空白のブラウザページが表示されます。<http://<servername>:1660> を経由して管理 GUI にアクセスするには、遠隔アクセスを有効にしてください。

自己登録 GUI (バグ ID 6533780、6538083)

誤ったユーザー名またはパスワードを入力すると、自己登録 GUI でテキストが入力できなくなります。

これを回避するには、「終了」ボタンを押して自己登録 GUI を再起動してください。

自己登録 GUI を使用すると、場合によっては Java がコアダンプしますが、引き続き登録は行うことが可能で、その他の不都合な影響も見られません。ただし、coreadm が一意にコアダンプを実行するように設定されている場合は、ディスク容量の使用状況を監視してください。

複数の認証 (バグ ID 6752988)

ホットキーシーケンス (デフォルトは Shift+Pause) を使用してセッションを切断するとき、複数の認証が必要になる場合があります。

管理 GUI のアップグレード (バグ ID 6572246)

管理 GUI には、Java サブレットおよび Java Server Pages (JSP) の標準規格をサポートする Web コンテナが必要ですが、以前のバージョンでは必要ありませんでした。この変更によって、Apache Tomcat 5.5 以上をシステムにインストールする必要があり、そのため、utconfig スクリプトが既存の Tomcat インスタンスの場所を要求するために拡張されました。

以前のバージョンの Sun Ray Server Software からアップグレードを実行する場合 (保存ファイルなどを使用して)、アップグレードを完了したあとに `utconfig -w` を実行してください。utconfig -w コマンドでは、Tomcat インストールの場所を含む管理 GUI の設定を求められ、そのあとは管理 GUI が自動的に起動されます。

Choose Host from List (Bug ID 6638939)

「Choose Host from List」オプションは、Xnewt を使用する XDMCP セッションでは動作しません。

画面の問題

マルチヘッドセッションのサイズ変更 (バグ ID 6635409)

マルチヘッドセッションの画面のサイズを変更するときは、すべての画面を手動で同じサイズに変更する必要があります。

これは、「Desktop Preference」メニューから簡単に行うことができます。

YUV アイコンの場合のビデオブランキング (バグ ID 6711545)

ビデオブランキング間隔オプションを設定していても、YUV アイコンが表示されている間は、節電状態に移りません。

マルチメディアの問題

メディア拡張機能では、現時点で次の機能がサポートされていません。

- 低帯域幅機能
- 複数のストリームの同時転送

XVideo を使用したスケールダウン (バグ ID 6747848)

このリリースでは、XVideo を使用するビデオプレイバックで縮小機能がサポートされていません。

RealPlayer のレンダリング (バグ ID 6752983)

XVideo を使用して RealPlayer でビデオクリップを再生している間に Ctrl+Moon ホイールを押すと、RealPlayer アプリケーションが長い間レンダリングできない場合があります。「Pause」をクリックしてから「Play」をクリックすると、動作が再び始まります。

Solaris 10 のゾーン

Solaris 10 はゾーンを使用することによって、複数の仮想オペレーティングシステム環境が Solaris の 1 つのインスタンスで共存することができ、追加されたセキュリティーおよび制御に関するシステムのその他のアクティビティーから独立してプロセスが実行されます。SRSS のリリースは、グローバルゾーンでのみサポートされています。

注 – Solaris 10 のローカルゾーンに SRSS 4.1 をインストールしようとする、エラーメッセージが生成されます。

キーボードの問題

Xnewt の CPU 使用量

Sun Ray セッションの XKB 拡張を有効にして Xnewt を使用している間に GNOME 端末ウィンドウから utswitch (別の Sun Ray サーバーへの切り替え) を実行すると、ウィンドウに新しい行が繰り返し生成されて、Xnewt が余分な CPU リソースを消費する場合があります。この問題は、utswitch コマンドを入力するときに Return キーを押す時間が少し長すぎたときにのみ発生します。

次のような回避策があります。

- 代わりに utselect GUI ツールを使用する。
- キーボード設定メニューからユーザーに対して Repeat キーを無効にする。
- utxconfig -k off オプションでユーザーに対して XKB を無効にする。
- 前記の utxconfig コマンドに -a オプションを含めて、システム標準を変更する。

キオスクの問題

キオスクアプリケーションタイプの正しい設定 (バグ ID 6533804)

一部のキオスクセッションタイプでは、追加のアプリケーションを起動できます。管理 GUI 内で新しいキオスクアプリケーションを指定するには、実行可能ファイルのパスを入力するか、アプリケーション記述子 (アプリケーションのさまざまなプロパティをリストするファイル) のパスを指定します。

管理 GUI では実行可能ファイルか記述子かの種類を自動的に判別できないので、新しいアプリケーションを追加する際に管理 GUI でその種類を正しく指定する必要があります。

誤った種類を指定すると、キオスクセッションが正常に起動できず、影響を受けた DTU が、多くの場合、26D エラーでハングアップします。

このようなエラーが発生した場合に回避するには、管理 GUI で指定されている種類を確認し、必要に応じて設定を修正してください。

マルチヘッドの CDE キオスクセッション (バグ ID 6645931)

マルチヘッドの CDE キオスクセッションは、CDE パッチ 11928{0|1}-14 では動作しません。マルチヘッド設定の Sun Ray DTU では、CDE ベースのキオスクセッションは起動時にハングアップします。DTU が 15 分ぐらい黒い画面を表示したあとで、セッションは正常に開始します。

この問題を回避するには、`/usr/dt/lib/dtobsolete` バイナリを削除します。このバイナリは、Solaris の将来のマイナーリリースでは CDE が廃止されて削除されることの警告を表示するものです。次はその例です。

```
# mv /usr/dt/lib/dtobsolete /usr/dt/lib/dtobsolete.gone
```

注 - CDE を使用しなくなる場合は、影響を受けるユーザーにほかの手段で警告してください。

CAM 移行後にセッションがハングアップする場合

既存の CAM 構成の保存およびキオスクモードへの移行の手順は、Sun Ray Server Software 4.1 インストールと構成マニュアルの第 4 章と第 7 章で説明されています。ただし、説明されている手順を実行したあとに `utconfig -k` と `utcammigrate -u` を使用すると、ポリシーに応じたキオスクセッションであるはずのセッションがハングアップしたようになり、黒い画面しか表示されなくなります。

この状態から回復するには、セッションを終了してください。影響を受けたすべてのセッションを確実に終了させるために、Sun Ray サーバグループのコールドリストを実行してください。

キオスクモードの構成解除によって無効になるキオスクポリシー

スマートカードセッションや非カードセッションでキオスクモードが有効である場合、`utconfig -u -k` を使用してキオスクモードを無効にするとキオスクポリシーも無効になります。

これはフェイルオーバーグループでは意外な動作かもしれません。フェイルオーバーグループでは、いずれかのサーバーでキオスクモードが構成解除されると、グループ全体でキオスクポリシーが無効になります。

フェイルオーバーグループのいずれかのホストでキオスクモードを構成解除する前に、キオスクポリシーを無効にし、サーバグループのコールドリストを実行してください。

キオスクモードを完全に構成解除しないでキオスクユーザーアカウントの保守作業を実行するには、`utconfig` の代わりに `/opt/SUNWkio/bin/kioskuseradm` ツールを使用してください。

外部ストレージの問題



注意 – 大容量記憶装置を切断する前に `utdiskadm -r` を実行しなかった場合、データが損失することがあります。外部ストレージデバイスを切断する前に、必ず `utdiskadm -r` を実行してください。

```
% /opt/SUNWut/bin/utdiskadm -r device_name
```

アイドルタイムアウトリミット後の USB 操作の失敗

アプリケーションが USB デバイスにアクセスしている間に、ユーザーが画面ロックアイドルタイムアウト時間より長く特定のセッションにアクセスできないとき (たとえば、多数のファイルを USB フラッシュドライブとの間で送受信しているとき)、セッションはロックされます。RHA、NSCM、および認証済みスマートカードの場合、これはセッションが切り離されて、すべての USB デバイスがセッションから切断されることを意味します。これにより、デバイスへのアプリケーションのアクセスが中断または中止される場合があります。

次のような回避策があります。

- タイムアウトしないように USB デバイスの使用状況を監視するようユーザーに注意する。
- タイムアウト時間が経過する前に I/O が完了できるよう、タイムアウト時間の値を十分に大きく設定する。
- スクリーンセーバーを無効化する。
- RHA を無効にする。



注意 – 最後の 2 つの代替手段は、セキュリティーレベルが低下するので望ましくありません。

Solaris Trusted Extensions の問題

オーディオ

utaudio バイナリの setuid-0 ビットを削除してください。

```
# chmod u-s /opt/SUNWut/bin/utaudio
```

音量コントロール (バグ ID 6481380)

パネルの音量コントロールアプレットが Trusted JDS で機能しません。

音量を調整するには、キーボードの 3 つの音量制御キーを使用するか、Shift+Props キーを押して Sun Ray 設定 GUI を起動してください。

複数のスライスまたはパーティション (バグ ID 6535611)

Sun Ray 外部ストレージは、Trusted Extensions のデバイス割り当てフレームワークによる使用のために単一のスライスまたはパーティションを処理します。

マウントポイント (バグ ID 6538004)

HSFS/UFS/PCFS ファイルシステムでの USB 外部ストレージデバイスのマウントポイントが正常に削除されません。

フラッシュディスクの割り当て (バグ ID 6562880)

UFS ファイルシステムのフラッシュディスクで、2 回目の割り当てが機能しません。これを回避するには、デバイスをホットプラグしてください。

マルチヘッドの役割の引き受け (バグ ID 6709982)

マルチヘッドの信頼できる JDS セッションでは、utmhscreen を削除するまで役割の引き受けが動作しません。

マルチヘッドの画面ロック (バグ ID 6713236)

マルチヘッドの信頼できる CDE セッションでは、画面ロックを使用して手動で画面をロックしてしまうと、セッションを取得できません。

回避策としては、ユーザーは Shift-Pause を使用して画面をロックする必要があります。

通常の方法では画面をロックできないようにしてこの状況避けるには、`/etc/pam.conf` ファイルで次の行をコメントにします。

```
dtssession-SunRay auth sufficient /opt/SUNWut/lib/pam_sunray.so syncondisplay
```

もう 1 つの方法は、`utpolicy` に `-D` オプションを指定することで、または管理 GUI の「Advanced」/「System Policy」ページで「Direct Session Access Allowed」を選択することで、RHA を無効にします。

Sun Ray 相互接続の設定 (バグ ID 6744443)

`/etc/security/tssol/tnrhdb` で次のエントリを有効にする必要があります。

```
0.0.0.0/32:admin_low
```

xscreensaver のリンク

`xscreensaver` が正しく機能できるように、次のリンクが作成されていることを確認してください。

```
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver /usr/bin/xscreensaver
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver-command /usr/bin/xscreensaver-command
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver-demo /usr/bin/xscreensaver-demo
```

各言語対応の問題

ポルトガル語ロケール

ポルトガル語ロケールを有効にするには、`pkgadd` コマンドを使用して、次のパッケージをインストールしてください。

```
# pkgadd -d . SUNWputes
# pkgadd -d . SUNWputo
# pkgadd -d . SUNWpkio
```

マルチバイトフォントの表示の問題

JRE の 1.6 より前のリリースを使用している複数バイトロケールでは、`utsettings` GUI などの Java ベースの Sun Ray ツールが正しく動作しません。マルチバイトフォントを適切に表示させるには JRE 1.6 が必要です。

この問題を回避するには、`/etc/opt/SUNWut` に適切な JRE リリースを指す `guijre` シンボリックリンクを作成します。たとえば、次のように行います。

```
# ln -s </path_to_jre_1.6> guijre
```